

2015年7月30日

2015年度第1四半期決算説明会における質疑応答

日 時： 2015年7月30日（木）18:15～19:05
場 所： NEC本社ビル B1F（多目的ホール）
説明者： 取締役 執行役員常務 兼 CFO 川島 勇

質問者A

Q PCサーバが好調の背景を教えてください。

A PCサーバの受注は、4、5月より6月の伸びが大きくなっています。この好調の背景には、Windows Server 2003の更新需要も含まれていると思いますが、民間企業のIT投資が回復してきている感覚を持っています。

Q その他事業の売上高の年間計画が前年度比で増収となっておりますが、第1四半期・第2四半期での減収に対し、下期はどの領域で期待できますか。

A 第1四半期の前年同期比減収の要因として、日通NECロジスティクスの非連結化の影響が80億円程度あり、それ以外は大きな変動はありません。年間では、エネルギー事業などで増収を想定しています。

Q 第1四半期の当期純損益が会社計画比で30億円程度上振れていますが、年間予想の650億円達成に余裕が出てきたのでしょうか。

A 第1四半期では、為替差益や持分法による投資損益の改善傾向を想定に織り込んでいなかったことが、上振れの理由です。年間では特別損失を100億円程度想定しており、それが発生しなければ改善の余地はありますが、これから見極めていきます。現時点で判断するのはまだ早いと思っています。

質問者B

Q テレコムキャリア事業の売上高と利益について、国内外の状況を教えてください。SDNの状況はどうでしょうか。

A 国内は減少しました。第1四半期は国内移動の減少が一番大きな要因です。海外は海底ケーブルなどにより増加しました。SDNの売上高はまだ業績に寄与するレベルではなく、費用が発生している状況です。

Q マイナンバー関連の状況はどうでしょうか。

A マイナンバー関連の第1四半期の売上高はそれほど大きくありませんでしたが、官公・公共向けの受注は、既にこの第1四半期で年間想定の半分程度が入っています。さらに、民間企業からの問い合わせも増えてきており、これから対応を進めていく状況です。

質問者C

Q 国内ITサービスの今後の受注動向のイメージを教えてください。

A 今後、第1四半期の傾向が急に悪化するとは考えてはいません。上期でも強い伸びを期待しています。

Q ITサービスの受注動向は、どのセグメントに関係がありますか。

A セグメントでは、パブリック事業、エンタープライズ事業、テレコムキャリア事業の中にITサービス事業が含まれています。

Q 上期について、期初想定からの変化はありますか。エンタープライズ事業は、営業利益の下期見通しが弱いのではないのでしょうか。

A エンタープライズ事業の第1四半期実績を踏まえると、下期見通しは少し弱いかもしれませんが、上期が終わったところで見極めていく前提で、現時点では年間予想を変えていません。

Q その他事業の営業利益の下期見通しが強く見えますが、何が改善するのでしょうか。

A スマートエネルギー事業の売上増に伴う損益改善を織り込んでいます。

Q アニュアル・レポート2015を拝見しましたが、非常に良くなった印象です。コーポレート・ガバナンスに関連して、監査役設置会社を採用していますが、委員会設置会社に移行しない理由はありますか。

A 現在、監査役による監査が非常に有効に機能していると考えています。既に社外取締役も複数名います。指名・報酬委員会も設置しており、委員の過半数は社外の方です。取締役会では、社外取締役から活発な議論をいただいております。現時点では委員会設置会社に移行するメリットが大きいとは考えていません。今の監査役設置会社形態でガバナンスを強化していきたいと考えています。

Q チーフオフィサー制を2011年に導入して5年が経っていますが、プラスになった点はあるようなことですか。

A かつては事業ライン単位で縦串でしたが、そこに横串を入れ、全社横断的に事業毎の強い部分に対して統制を取ろうとしています。チーフマーケティングオフィサー (CMO) は“Orchestrating a brighter world”というブランドイメージを打ち出し、それを社員が共有することで、社会ソリューション事業に集中できていると考えています。1つの横串での活動の成果だと思っています。

質問者D

Q エネルギー事業の状況はどうでしょうか。下期にかけてどのような期待がありますか。

A 下期には、エネルギー事業全般での伸びを期待しています。小型蓄電やユーティリティの領域、さらに北米で買収したNECエナジーソリューションズの活動にも期待しています。

Q パブリック事業の第1四半期実績は、見た目が良くないですが、想定どおりとのことでした。第2四半期から下期に利益を計上していく計画になりますが、順調なのでしょうか。

A パブリック事業は大きくITサービスと社会インフラの2つに分かれます。第1四半期のITサービスは前年同期に対して10%の増収となり、社会インフラは前年度の大型案件の影響で7%減となりましたが、想定内で進捗しています。上期は若干の増益傾向と想定しており、下期は加速していくと考えています。想定範囲であり心配していません。

Q システムプラットフォーム事業について、期初の説明では円安によるデメリットの話がありましたが、第1四半期の状況はどうでしたか。

A 前年第1四半期のドルは102円で、この第1四半期は120円でしたので、円安が進みました。このインパクトが30~40億円ありましたが、売価アップ、原価低減、費用削減で吸収しました。

質問者E

Q 第1四半期の固定費増や戦略投資などはどれぐらいありましたか。

A 戦略投資は、前年同期に対して20~30億円増加しました。加えて、為替のインパクトが20~30億円程度です。これらに対して、売価アップ、原価低減、費用削減などを行いました。一方で、年金の償却は25億円程度改善しました。

Q 第1四半期の消去・配賦不能が前年同期に対して、20億円改善しているのはなぜでしょうか。

A 費用発生のずれがありました。

Q 戦略投資は消去・配賦不能の年間計画△630億円に含まれていますか。

A 消去・配賦不能に入るものと、各セグメントに入るものがあります。消去・配賦不能に入るものは、前年度並みの75億円を想定しています。

Q 消去・配賦不能の上期見通しのイメージを教えてください。

A 少し保守的に、費用が出るという見方をしています。例えば、当社におけるIFRS対応や業務改革関連でのシステム対応の費用などです。前年同期に対して、50~60億円増えると想定しています。

Q パブリック事業の消防防災の状況はどうでしょうか。

A 消防無線デジタル化の受注はピークアウトしています。消防防災の売上高は、下期にかけて減収に転じる見込みです。なお、パブリック事業の第1四半期大型案件の減は、消防防災関連ではありません。

質問者F

Q 国内ITサービスの業種別の受注状況を教えてください。第2四半期以降に向けてのイメージはありますか。

A この第1四半期は前年同期に対して、官公が10%以上、公共も10%に近い伸長となり、上期も同様の傾向と見ています。金融は前年を下回りましたが、第2四半期で挽回し、上期ではプラスの見通しです。通信は第1四半期ではプラスですが、第2四半期がマイナス、上期も前年同期を少し下回りそうです。製造は2割増、流通・サービスは50%増と好調で、上期も前年同期を上回る見通しです。

Q 製造や流通・サービスの好調の継続性はありますか。

A もう少し見極める必要がありますが、前年同期比プラスは続いていくと考えています。

Q パブリック事業の第1四半期営業損益の説明に体制強化とありますが、どのようなことをやっていますか。第2四半期以降も継続して費用が出てくるのでしょうか。

A グローバルでのパブリック事業の拡販に向けて、要員の拡充など体制強化を図っています。もう少し継続して費用は出てくると考えています。

質問者G

Q 第1四半期の国内ITサービスの受注が前年同期比116%となりましたが、既に昨年同期から改善してきていると思います。今後どれぐらいの水準に落ちていくと考えていますか。

A それほど落ちるとは考えていませんが、前年度の水準が低かったことも踏まえ、もう少し様子を見たいと思います。

以 上